

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 22日から23日にかけて、高気圧が日本海から千島近海へ移動する。
- 22日から24日にかけて、低気圧が中国東北区からオホーツク海へ進み、24日から25日にかけて、気圧の谷が日本付近を通過する。
- 26日は、気圧の谷は日本の東へ進み、大陸の高気圧が日本付近に張り出す。

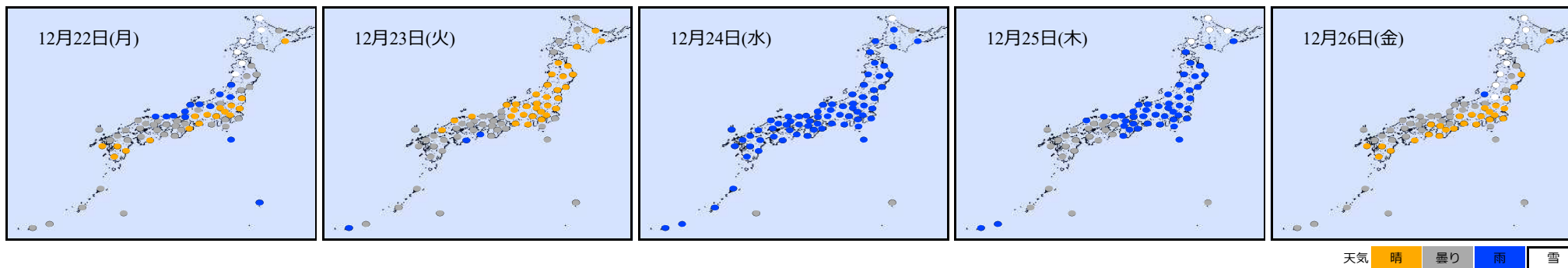
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

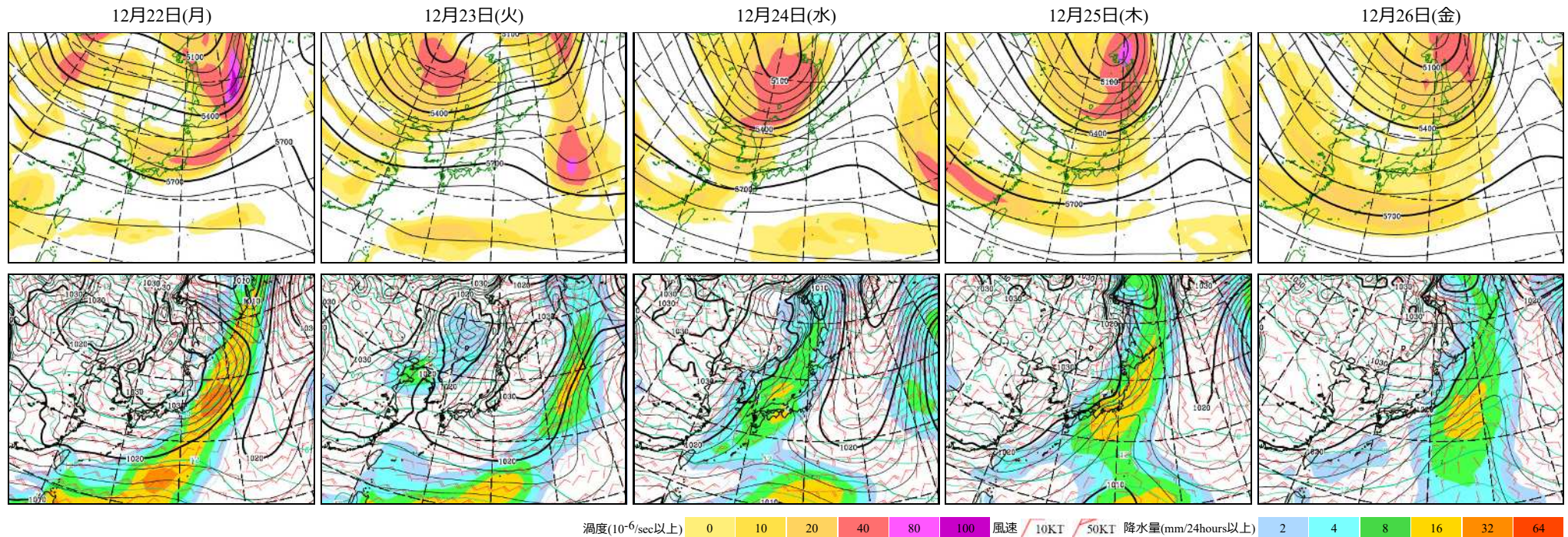
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

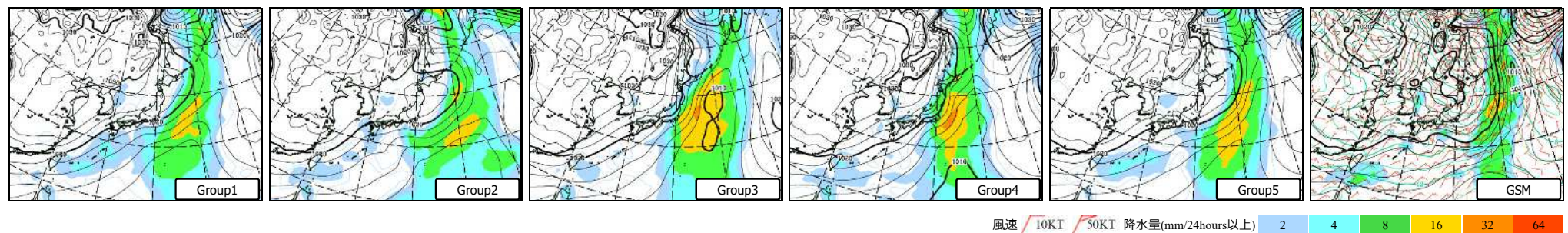


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、晴れる所もあるが、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。24日から25日は雨または雪の降る所が多い。
- 西日本太平洋側は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく、23日から25日にかけては雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、23日から25日にかけては雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、24日は日本の東のリッジが強まり、中国東北区のトラフが深くなった。地上の気圧配置の予想は大きな初期値変わりはない。
- 日本モデルとECMは、23日は中国東北区のトラフが深まる予想になった。25日以降については、ECMは寒冷渦が中国東北区に留まる予想だが、他のモデルはリッジが進む予想となり、モデル間の差が大きくなっている。地上の気圧配置は、気圧の谷が24日から25日にかけて通過する予想は各モデルで一致するが、26日の気圧配置はモデル間のバラツキが大きくなっている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。